

風しん第5期の予防接種説明書

風しんの抗体検査を行った結果、十分な抗体を有していないと判断された方に対する予防接種で、麻しん・風しん混合ワクチンを接種します。定められた接種方法を守れなかった場合、予防接種法に基づかない接種（任意接種）として取り扱われ、予防接種にかかる費用は、全額自己負担となります。また、その接種で健康被害が生じた場合は、法に基づく救済を受けられません。

【接種対象者】廿日市市に住所を有し、1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性のうち、
風しん抗体検査の結果、十分な抗体を有していないと判断された者

【接種期間】令和7年(2025年)2月28日まで

【接種費用】無料

【接種回数】接種期間中に1回

【接種ワクチン】麻しん風しん混合(MR)ワクチン

【接種量】1回0.5mLを皮下に注射します

1 風しんについて

風しんとは、風しんウイルスの感染によって起こる急性熱性発疹症です。潜伏期間は2～3週間で、主な症状として、発疹、発熱、リンパ節腫脹が認められます。

合併症として、血小板減少性紫斑病や脳炎などが報告されており、軽視できない疾患です。

妊娠初期の妊婦が感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、先天性心疾患、白内障、難聴のほか、精神や身体の発達に遅れ等の障がいを持った先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

2 麻しん風しん混合(MR)ワクチンについて

麻しん風しん混合(MR)ワクチンは、麻しんウイルスと風しんウイルスを弱毒化して作られた生ワクチンです。

接種を受けた人の95%以上に感染予防に必要な抗体ができると言われています。

3 ワクチンの副反応

主な副反応は、発熱(接種した人のうち約20%)や発しん(接種した人のうち約10%)です。

これらの症状は、接種後5～14日間の間に多く見られます。ときに局所症状(疼痛、腫脹、硬結、熱感等)がみられることがあります。いずれも一過性で通常数日中に消失します。

稀にみられる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難など)、急性血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症があります。

4 予防接種をうける前に

一般的な注意

気にかかることや分からないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。

予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。現在、病気などで治療中の方、今までに免疫状態の異常を指摘されたことがある方は、担当医師とよく相談し十分に納得して接種を受けましょう。

予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分によってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと）を起したことがある方
- ④ 明らかに免疫機能に異常のある疾患がある方および免疫抑制をきたす治療を受けている方
- ⑤ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

接種を受けた後の注意事項

- ① 接種を受けた後に、急な副反応が起こることがありますので接種後30分間はその場で様子を見るようにし、30分たってから医療機関を出るようにしましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや気分が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、27日間以上の間隔をあける必要があります。ただし、同時接種を希望する場合は、医師にご相談ください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、他の病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。

【お問合せ先】

健康福祉総務課 TEL 20-1610

佐伯支所市民福祉係 TEL 72-1124

吉和支所市民福祉係 TEL 77-2113

大野支所健康福祉係 TEL 30-3309

宮島支所市民福祉係 TEL 44-2001